

建築構造用FMS系鋼材

国交大臣認定を取得

淡路マテリア

制震ダンパー芯材向けに普及目指す

溶接継手大手で素材・技術開発を手掛ける淡路マテリア(本社・兵庫真洲本市、社長・三尾堯彦氏)が共同開発した「建築構造用Fe-Mn-Si(FMS、鉄マンガシシリコン)系鋼材」が、一般材料として使用できるよう建築基準法に基づく国土交通大臣認定を取得した。一般的な鋼材に比べて疲労耐久性が約10倍優れている強みを武器に、建築物の制震ダンパー芯材としての普及を目指す。

近年は製造実績が材料として国交省に審査を申請。安定した性能と製造に関わる品質管理体制が認められ、

11月16日付で大臣認定を受けた。

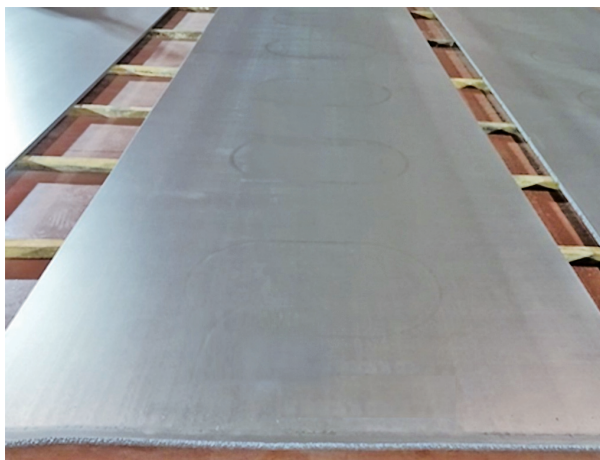
板厚は8〜34mmまで対応可能。認定と同時に許容応力の基準強度指定も受けた。

今回の大臣認定取得により申請作業が軽減されるため、建築事業者や設計者はさまざまな形状のダンパー用芯材を選択できるようになった。淡路マテリアは従来の超高層ビル向けに鋼管と組み合わせ

たブレース型ダンパーマンション、一般住宅ダンパーへの採用拡大に加え、中低層ビルや向けで板状のパネル型に力を入れる。

FMS系鋼材は物質
・材料研究機構、竹中
工務店と共同開発した
合金鋼。長周期・長時間
地震動による繰り返し変形
に対する、既存品よりも耐
制震性能の余裕度を向上させた。

これまでにもJPTA
ワーキンググループ(名古屋
市)や愛知県国際展示場
(常滑市)などの制震
ダンパーに採用されているが、
建材として建築物限定の認定を個別に
取得する必要があった



圧延した建築構造用FMS系鋼材

